

緒 言

福井縣統計書ハ縣下行政其ノ他各般ノ統計ヲ蒐集シ、既往現在ノ狀勢ヲ大觀セムカ爲毎年之ヲ刊行シ、今ヤ昭和七年ノ統計書ヲ編纂スルニ至レリ、本書編ヲ分ツニ其ノ一ヲ「土地戸口等」其ノ二ヲ「學事」其ノ三ヲ「産業」其ノ四ヲ「警察衛生等」ト爲ス。

各編收録スル資料ハ主トシテ市町村及學校ノ報告並廳内ノ調査ニ依リ或ハ關係官公署會社等ノ供給ニ求メタルモノアリ。蓋シ世運ノ推移學術ノ進展ニ基キ統計ノ用益多キヲ加フ是ヲ以テ調査ノ正確ヲ期スルト共ニ表章方法ヲ更メ或ハ新ニ收録シタルモノ尠シトセス。然リト雖尙遺憾ナキヲ保セザルニ依リ漸次之ガ改善ニ努メ時世ノ要求ニ應セシムル所アラムトス。

昭和九年三月

福井縣知事官房

昭和七年福井縣統計書 第一編

凡 例

本編ハ昭和七年又ハ昭和七年度ノ事項ヲ掲載シタルモノナリ、然レトモ其ノ以後ノ事項ニシテ調査ヲ了ヘタルモノハ之ヲ掲載シ又已ムヲ得サルモノハ昭和六年若ハ昭和六年度以前ノモノヲ掲ケタルモノアリ。

編中何年度ト記スルモノハ其ノ年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル一箇年度、何年末ト記スルモノハ其ノ年十二月三十一日現在、何年度末ト記スルモノハ翌年三月三十一日現在、何年ト記スルモノハ其ノ年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル一曆年間、何日ト記スルモノハ其ノ日現在ノ意ナリ。

前數年ノ事項ヲ列記シタルモノハ本表ノ數字ト其ノ質ヲ同フシ即チ本表現在數ナルトキハ比較數亦現在數、一年間又ハ一年度間ノ數ナルトキハ比較數亦一年間若ハ一年度間ノ數ナリ。

數位ハ千位百萬位ニ「,」小數アルトキハ一位ニ「.」ヲ附シ不詳ノモノハ「?」一位ニ滿サルモノハ「0」全ク無キモノハ「—」ヲ填入セリ。

金錢ニ關スルモノハ概ネ四捨五入ノ法ヲ用ヒテ圓位ニ止メタリ。

昭和七年 福井縣統計書目次

第一編 土地及戶口等

總 說	1	36 月別出生並死産(現住人)	16
土 地		37 原因別死亡(現住人)	16
1 土地總段別	4	38 年齡及身分別婚姻	17
2 官有地	4	39 夫妻相互/年齡別婚姻	18
3 民有有租地地籍及賃貸價格	4	40 夫妻相互/年齡別離婚	18
4 民有無租地	5	交通及通信	
5 免租年期地地籍及賃貸價格	5	41 官設鐵道線路及敷地	19
氣 象		42 官設鐵道運輸	20
6 測候所	6	43 私設鐵道	21
7 氣壓氣温及濕度	6	44 私設鐵道運輸	21
8 平均氣壓	6	45 郵 便	25
9 平均氣温度	7	46 電 報	26
10 平均濕度	7	47 電信線路及線條	26
11 平均雲量	7	48 電話加入者數	27
12 降水日數及降水量	8	49 市内電話線路及線條	27
13 降雪日數及期節	8	50 市外電話線路及線條	28
14 快晴日數	8	51 電話料收入	28
15 曇天日數	9	52 諸 車	28
16 暴風日數	9	53 海岸延長及港灣	29
17 結霜日數	9	54 港灣/狀況	29
18 最多風方位	10	55 燈 臺	29
19 風ノ速度	10	56 浮 標	30
20 風ノ平均速度	10	57 船 舶	30
21 沿海及河川流域雨量	11	58 港灣入港船舶ノ隻數及噸數	30
22 地方暴風雨信號所	11	59 敦賀浦地斯德間汽船乘客人員	31
23 暴風雨標位置	11	土 功	
24 測候用無線電信機	12	60 水害員數	31
25 地震計	12	61 水害損失價額	31
26 地震計ニ現ハレタル震動	12	62 工事別土木費決算	32
戶 口		63 工種別土木費決算	32
27 世帯及人口	12	社寺及宗教	
28 配偶關係別人口(郡市別)	13	64 神社及神職	32
29 階級年齡及配偶關係別人口(總數)	13	65 寺院及僧侶	33
30 構成人員別普通世帯(郡市別)	14	66 各宗派別寺院	33
31 推計人口	14	教育慈惠及褒賞	
32 現在人口階級ニ別テタル市町村數及其ノ人口	15	67 行旅病人	34
33 本籍人口及現在人口並現住戸數	15	68 行旅死亡人	34
34 人口動態總覽(現住地別)	15	69 救護法ニ依ル救護	34
35 年齡階級別死亡(現住人)	16		

70	社會事業ノ一(感化教育).....	35
71	社會事業ノ二(育兒).....	36
72	社會事業ノ三(幼兒保育).....	36
73	社會事業ノ四(窮民救助).....	39
74	社會事業ノ五(職業紹介).....	39
75	社會事業ノ六(宿泊救護).....	39
76	社會事業ノ七(公設市場).....	40
77	社會事業ノ八(公設食堂).....	40
78	社會事業ノ九(公益質屋).....	40
79	社會事業ノ十(免囚保護).....	41
80	軍事救護.....	41
81	篤行奇特者.....	41

兵 事

82	壯丁教育程度種別.....	42
83	壯丁體格検査.....	42
84	壯丁身長及體重最高最底.....	43
85	海軍志願兵.....	43
86	日本赤十字社社員及年釐金.....	44
87	愛國婦人會.....	44

議 會

88	貴族院多額納稅議員互選者.....	45
89	衆議院議員選舉.....	47
90	縣會議員選舉.....	48
91	縣會議員選舉無効投票.....	48
92	縣會及縣參事會.....	49
93	市會議員選舉.....	49
94	市會及市參事會.....	49
95	町村會.....	49

官 公 吏

96	縣廳各部分課.....	49
97	休職官吏吏員職員.....	50
98	縣職員(課別).....	50
99	市吏員.....	51
100	町村吏員.....	52

財 政

101	縣市町村水利土功組合歳入歳出.....	53
102	直接稅負擔(決算).....	53
103	國 稅.....	53
104	地 租.....	54
105	所得稅.....	55
106	家督相續稅.....	56
107	遺產相續稅.....	56
108	第三種所得稅種類別決定額.....	56
109	織物消費稅.....	58

110	營業收益稅.....	58
111	酒造稅.....	60
112	國稅滯納人員及金額.....	60
113	租稅外國庫收入.....	61
114	國庫支出縣經費.....	62
115	縣歳入.....	64
116	縣歳出.....	64
117	縣 稅.....	66
118	縣稅滯納處分.....	67
119	特別會計ニ屬スル縣歳入歳出.....	68
120	福井市歳入.....	68
121	福井市歳出.....	69
122	福井市稅.....	70
123	福井市瓦斯事業費歳入.....	70
124	福井市瓦斯事業費歳出.....	70
125	福井市水道事業費歳入.....	71
126	福井市水道事業費歳出.....	72
127	町村歳入.....	72
128	町村歳出.....	74
129	町村稅.....	76
130	普通水利組合歳入.....	76
131	普通水利組合歳出.....	78
132	水害豫防組合歳入.....	78
133	水害豫防組合歳出.....	79
134	縣有財產ノ一.....	80
135	縣有財產ノ二.....	81
136	縣有財產ノ三.....	81
137	福井市基本財產.....	81
138	町村基本財產.....	82

其 ノ 他

139	瓦 斯.....	82
140	瓦斯製造高及消費高.....	82
141	瓦斯火口數及料金.....	83
142	令達公布件數.....	83
143	收受發送文書件數.....	83

總 說

位 置

本縣ハ北陸道ノ西南部ニ位シ南ハ北緯三十五度十八分四十五秒ニ始マリ北ハ北緯三十九度十六分三十八秒ニ終リ東ハ東經百三十六度四十六分三十秒ニ始マリ西ハ東經百三十五度二十七分十七秒ニ終ル。

北ハ石川縣ニ境シ東南ハ岐阜縣ニ接シ西南ハ京都府、滋賀縣ニ連リ北ハ日本海ニ面シ航路ニ晝夜ヲ隔テテ遠ク浦塩ト相對ス。

地 勢

越前ハ四面山ヲ繞ラシ中央ニ一大盆地ヲ包擁ス所謂越前平野ニシテ縣下最大ノ平地ナリ。

東北加賀白山ヨリ起レル山脈ハ別山ニ至リ岐レテ二脈ト爲リ重疊疊伏シテ國境ヲ限ル。一ハ國ノ東南ニ走リ大日、油坂、蠅帽子、荒島、冠嶽ノ諸峯ト爲リ極メテ峻峻ナリ。一ハ北境ニ近ク國内ヲ西ニ走リテ經ケ嶽、鷲ヶ嶽、淨法寺、丈鏡ノ諸山ト爲リ西北國境附近ニ至リテ漸ク高度ヲ減シ海ニ近ツク。國境山脈ノ最高點ハ二ノ峯ニシテ加賀飛驒ノ境ニ聳エ一千九百六十二米白山火山燧ニ屬シ本縣第一ノ高峯ナリ。又國ノ西方日本海ニ近ク蟠風セル一脈アリテ國見、應樂、越知ノ諸山ト爲リ山脚海ニ迫リテ平地ヲ見ズ奇巖屹立シ激浪岩ヲ囓ムノ地多ク北端餘脈盡クル所僅ニ砂丘ヲ形成ス。

河川ハ概シ東南ノ山境ニ其ノ源ヲ發シ西北流シテ九頭龍、足羽、日野ノ三川ト爲リ後合シテ九頭龍ノ本流三國港ニ至リテ日本海ニ注グ。上流ハ千仞ノ溪谷ヲ奔リテ隨所ニ水力發電ノ原動力ヲ供給シ漸ク流ル、ニ及ヒテ流域一帯ヲ灌溉ス平坦部ハ所謂越前平野ニシテ土地肥沃ニシテ五穀豊饒ナリ。

若狹ハ越前ト其ノ趣ヲ異ニシ南方ニ三十三間山、百里ヶ嶽、三國峠、八ヶ峯西方ニ菅葉山等ノ峰巒國境ヲ限リ北方ニ傾キテ海ニ至ル。從ツテ河川ノ大ナルモノ少ク南川、北川ヲ其ノ主ナルモノトシ狹少ナル平地處々ニ點在スルノミニシテ水田ニ乏シク爲ニ養蠶ノ發達ヲ來スニ至レリ。

海岸線ハ總延長百九十四軒ニ達シ嶺北沿岸一帯ハ屈曲ニ乏シク港灣ノ見ルヘキモノナシ。之ニ反シテ嶺南四郡ノ沿岸ハ出入甚タ多ク頗リ肢節ニ富ミ岬角參差トシテ複雑極リナキ形貌ヲ有ス越前岬ヨリ西方京都府經ケ岬ニ至ル一線以南ハ所謂若狹灣ニシテ古來斷層、沈降、隆起、侵蝕、沖積等交々ノ影響ヲ受ケ地形上瀬戸内海、伊勢灣、淀川流域、近江盆地ト不離ノ關係ニ立ツモノナリ灣内更ニ敦賀、小濱ノ灣入アリ裏日本海運ニ幾多ノ將來ヲ有ス。

廣 袤

總面積四千八百八十八方軒ヲ有シ廣袤全國四十六府縣中第三十八位ニシテ滋賀縣(琵琶湖ヲ含ム)ニ比シ狹ク埼玉縣ニ比シ稍大ナリ。然レトモ本縣ハ山地三分ノ二ヲ占ムルヲ以テ廣袤ノ割合ニ利用面積多シ。

土 地

本縣ノ土地總段別ハ二十三萬五千六百三十町六段、内國有地

五千四百六十七町五段、民有地二十三萬百六十三町一段ナリ。民有々租地ハ十八萬三千三百九十四町步ニシテ民有地ノ約八割ニ當リ民有無租地及免租年期地ハ四萬六千七百六十九町一段ナリ。

國有地ハ山林四千七百五十七町一段、公私立學校及官公署敷地七百十町四段ナリ。無租地ハ保安林四萬四千三百五十四町七段社地百五十二町三段、公私立學校及諸官衙公署敷地百一十一町二段、墳墓地百八十一町八段、用惡水路、溜池、砂防地、井溝、堤塘、道路等ハ千二百五十三町八段、其ノ他ノ土地二百七十六町三段ナリ。年期地ハ總ヘテ四百三十九町步アリ。

氣 象

本縣ヘ一方日本海ニ面シ他方山嶽ニ依リ圍レタル地勢ナルヲ以テ其ノ氣候ハ主ニ海上ヨリノ影響ニ依リ左右セラルル傾向ニ在リ。尙濕度ノ如キニ至リテハ本邦中最タルモノニ屬シ殊ニ冬季ハ積雪多ク各種産業ニ影響スル處多シ。

昭和七年十二月中ノ平均濕度ハ八十五度ニシテ同年中ノ平均濕度ハ八十一度ナリ。氣温ノ最高ハ八月ノ三十七度五分ニシテ最低ハ三月ノ零下四度三分ナリ。又降水日數ハ三月最多ク二十七日一月、十一月ハ各二十三日十二月ハ二十二日、二月二十一日其ノ他ノ月ニ在リテモ毎月十日ヲ降ルコト少ク同年中ノ降水日數ハ二百十四日ニシテ雨天ハ殆ント三分ノ二ヲ占ム。降水量ハ一、二、三、四、十一、十二月最モ多ク何レモ二百耗以上ニ達シ一年間ヲ通スレハ實ニ二千四百四十八耗ヲ算ス。尙昭和六年十二月十三日初雪、昭和七年三月三十一日終雪ナルガ故ニ降雪期間百九日ニ及ヒ最深積雪一尺六寸ニ達セリ。又昭和七年中ノ快晴日數僅ニ二十七日、曇天百九十七日、暴風三日、結霜日數五十日等ナリ(福井測候所ノ調査ニ依ル)

戸 口

世帯及人口

本縣ノ世帯總數ハ十二萬八千三百八、人口六十一萬八千四百四十四人ニシテ一方里ニ付二千三百七十二人ノ密度ト爲ル。總人口中男ハ三十萬四千五百二十五人、女ハ三十一萬三千六百十九人ニシテ女百人ニ付男九十七人ニ當リ全國平均女百人ニ付男百一人ニ比シ男ノ割合少キハ纖維工業地タルノ故ナラン。世帯總數中普通世帯ハ十二萬七千五百四十一、準世帯ハ七百六十七ニシテ普通世帯ニ屬スル人口ハ總數ノ九割九分ヲ占ム、而シテ一世帯平均人員ハ普通世帯四人八分、準世帯十四人二分五厘兩者ヲ通シテ四人八分二厘ト爲ル。(以上ハ昭和五年國勢調査ノ結果ナリ)之ヲ大正十四年ノ國勢調査ニ比スレハ普通世帯ニ於テ二千五百四十二ヲ増シ、準世帯ニ於テ三十四ヲ減シ人口ニ於テ二萬二百四十五人ヲ増加セリ。

人口動態

昭和六年中ノ婚姻ハ五千八百二十八人、離婚七百二十六人ニシテ出生ハ男一萬七百四十九人、女一萬三百七十七人、計二萬一

千五十六人ニ達シ男ハ女ヨリモ四百四十二人多ク生産シタリ。同年申死亡セルモノハ男七千六百七十四人、女八千人、計一萬五千六百七十四人ナルカ故ニ出生、死亡ノ差ハ五千三百八十二人ノ自然増加ト爲リ、前年ニ比シ三百七十四人ノ減少ヲ示ス。尙最近十箇年間ニ於ケル平均ハ年五千八百三十二人餘ノ増加ヲ示セリ。

原因前死亡

昭和六年中ニ於ケル死亡原因別ヲ示セハ死亡者千人中其ノ最高率ハ下痢及肺炎ノ百五十三人二分ニシテ之ニ亞クハ其ノ他ノ疾患九十六人六分、肺炎及氣管支肺炎九十四人二分、老衰七十八人八分、畸形、先天性弱質及乳兒ニ固有ノ疾患六十七人八分、肺結核五十七人一分等ハ最も著シキモノナリ。

交 通

道 路

交通ノ狀況ハ國道、府縣道ノ總延長百八十八萬九千九百三十五米ニシテ面積ニ比シ少カラザルモ山地割合ニ多キ關係上其ノ一部或ハ險路峻坂ト爲リ或ハ幅員狹少ト爲レルヲ以テ毎年ノ改修ニ比較的多額ノ經費ヲ投シツ、アリ。殊ニ昭和三年度ヨリ同六年度ニ亘リ縣下各地ニ道路開墾ヲ計畫シカ總工費三十五萬二千五百圓ヲ以テ工事施行濟ナリ。

鐵 道

鐵道ハ總延長三百三十五軒餘ニ達シ北陸本線、小濱線、三國線ノ外私設鐵道七線アリ。更ニ計畫中ニ屬スル越美線ノ開通ヲ見ルトキハ交通上裨益スル所多大ナルベシ。

諸 車

諸車ハ昭和七年末現在ニ於テ馬車八百八十一臺、牛車九十六臺、荷車二萬七千五百七十臺、人力車三百五臺、自轉車五萬二千二百六臺、自動車五百五十五臺、其ノ他ノ車千二十七臺總計八萬二千六百四十臺ニ達ス。而シテ此等ノ内自轉車ハ急進的ニ自動車ハ漸進的ニ増加シ人力車ハ自然減少ヲ示セリ。

社 寺 及 宗 教

神 社 及 神 職

昭和七年末本縣ノ神社總數ハ千六百七十五社、神職百八十六人アリ内官幣大社一、官幣中社一、別格官幣社一、國幣中社二、國幣小社一、縣社二十五、郷社四十七、村社千二百七十無格社三百二十七社等ナリ。

寺 院 及 僧 侶

本縣ノ宗教ハ佛教最モ盛ニシテ昭和七年末ニ於ケル寺院總數ハ千六百六十三、僧侶千五百九十九人ニ達シ寺院一ニ付世帶數僅ニ七十七ニ當ル。寺院ヲ宗派別ニ觀ルトキハ眞宗八百七十一最モ多ク縣下寺院ノ半ヲ占メ之ニ亞クハ曹洞宗二百七十二、日蓮宗百三十八、天臺宗百十、淨土宗百五、臨濟宗八十三、眞言宗六十二、時宗二十、黃蘗宗二等ナリ。

兵 事

昭和七年ノ壯丁体格検査人員ハ六千七百四十八人、内甲種千七百三十六人ニシテ總員ノ二割六分ニ當リ第一乙種五百三十三人(八分)、第二乙種千五百六十七人(二割三分)ト爲ル。又丙種二千四百六十九人、丁種四百三十五人、戊種八人此等ヲ併セ

テ四割三分ニ當ル。教育程度ハ高等學校卒業以上及同等ノ者百九十人、中學校卒業及同等ノ者七百三十四人、高等小學校及同等ノ者三千九百九十七人、尋常小學校卒業及同等ノ者千六百四十三人、尋常小學校未卒業及不就學者百八十四人ニシテ之ヲ前年ニ比スレハ尋常小學校未卒業及不就學者ハ漸次其ノ數ヲ減シツ、アリ。又検査人員中身長ノ最高ハ一米七七〇、最低一米三八〇、体重ハ八十一斤三〇最輕二十八斤六〇ナリトス。

官 公 吏

縣 職 員

昭和八年七月一日現在ノ本縣職員ハ千五百四十二人ニシテ其ノ俸給年額九十萬二千二百七十八圓ト爲ル。内勅任一人、委任十八人、同待遇四十六人、判任百五十五人、同待遇七百六十一人、縣吏員百三十六人、備員(雇員ヲ含ム)三百七十五人囑託五十人等ナリ。

市 吏 員

昭和七年末現在ニ於テ市長、助役、收入役各一人、主事三人、技師三人、書記五十一人、技手十七人、事務履三十六人、囑託二人、總數百十五人ニシテ此ノ俸給年額ハ七萬五千二百二十六圓ナリ。

町 村 吏 員

昭和七年末現在ニ於テ町村長百六十八人、助役百六十六人、收入役百五十五人、區長二千八十五人、同代理者千九百六十八人、書記六百七十三人、事務履五十八人、技術員三十七人、常設委員八百二十八人、其ノ他五人、總數六千四百四十三人ト爲リ内名譽職ヲ除ク有給吏員ノ俸給年額ハ三十五萬三千五百九十一圓ナリ。

財 政

縣

縣財政ハ明治十四年即チ置縣當時ニ在リテハ僅ニ二十八萬三千餘圓ニ過ギザリシガ日清戰役以來事業ノ勃興ト法令ノ結果ニ依ル等漸ク經濟ノ膨脹ヲ來シ明治二十九年年度ニ至リテ約三倍ニ上リ加フルニ水害復舊工事は依リ縣債償還及九頭龍川改修事業ニ對スル支出等ニ依リ年々縣費ヲ増嵩シタリ。茲ニ於テ縣民ノ負擔輕減ヲ圖レノ必要ニ迫リ明治三十五年及同三十七年度ノ兩回ニ亘リ極力財政ノ整理ヲ斷行シタルモ戰後ノ經營ト時運ノ進歩ニ伴ヒ益々財政ノ膨脹ヲ來スニ至レリ。加フルニ其後郡制ノ廢止ニ依リ自然縣事業ノ増加ヲ來シ縣費ハ愈々膨脹シタルヲ以テ大正十二年政府ノ旨ヲ依テ大整理方針ヲ樹テ事業費事務費ヲ通シテ極力整理緊縮ヲ敢行シ爾來其ノ方針ヲ以テ進ミタルモ法令ニ依ルモノ其ノ他縣民ノ福利増進上已ムヲ得ザルモノ等アル爲メ昭和七年度ノ決算ハ七百三十五萬五千五百六十九圓ニ上ルニ至レリ。之ヲ前年度ノ決算ニ比スレハ百十三萬二千二百三十圓ヲ増シ大正十一年度決算五百四十一萬九千九百三十二圓ニ比シ百九十三萬五千九百三十七圓ノ増加ヲ來セリ。

市 町 村

市町村ノ財政狀況ヲ觀ルニ昭和七年度ニ於テ市費五十七萬四千九百三十二圓、町村費五百五萬五千七百七十四圓(何レモ

豫算)ニシテ之ヲ市町村制實施ノ翌年タル明治二十三年度ニ比スレハ市町村ヲ通シテ實ニ約十七倍ニ達セリ。縣ハ不斷銳意緊縮方針ヲ以テ之ヲ率フル所アリシモ社會ノ進展ニ伴ヒ教育土木、産業其ノ他各般ノ施設ニ追ラレ自然膨脹ヲ餘儀ナカラシメタルニ外ナラズ。

諸稅負擔

昭和七年度ノ本縣ニ於ケル租稅負擔ノ狀況ヲ見ルニ直接國稅百二十一萬三千七百三十一圓、縣稅總額二百七十一萬五千五百二十圓、市町村稅三百二萬一千六百一圓ニシテ之ヲ一世帯當一圓ニ、直接國稅九圓五十二錢、縣稅二十一圓二十六錢、市町村稅二十三圓六十九錢ト爲ル。

港 灣

數 賀 港

本港ハ日本海沿岸ニ於ケル主要港灣ニシテ灣内廣濶水極メテ深く且ツ暗礁砂等ノ障害物ナキ爲大船巨舶ト雖モ運航自在且宛緊安全ナリ。政府ハ明治十四年工費十萬圓ヲ投シテ金ヶ崎波止堤ノ築設ニ着手シ翌十五年其ノ工ヲ竣ヘ次テ明治二十九年之ヲ特別開港ニ指定シ同三十二年開港令ノ公布セララルキ亦其ノ一ニ屬ヘタリ。其ノ後西比利亞鐵道ノ全通スルニ及ヒ政府ハ本港修築ノ必要ヲ認メ明治四十二年四箇年繼續事業トシテ工費十萬圓ノ第一期修築工事ヲ起シ突堤ノ延長、棧橋ノ築設、揚場ノ築造、浮標ノ設置ヲ竣ヘタリ。更ニ第二期修築工事トシテ大正十一年度ヨリ直轄工事ヲ起シ爾來十箇年ノ星筭ト三百六十二萬餘圓ノ巨費ヲ投シテ昭和七年三月竣工セリ。次ニ歐洲大戰中非常ナル發展ヲ遂ケタル我對外貿易モ戰後ノ財界變動ニ因リ漸次衰頹ヲ來シ其ノ後甚シキ激減ヲ示スニ至レリ。而シテ昭和七年中當港ヨリノ移出ハ二萬二千四十八噸、價額百五十三萬千二百五十三圓、移入ハ二十三萬二千三百六十六噸、此ノ價額千二百七十五萬八千五百七十二圓ニシテ移出ノ重ナルモノハ雜貨及藥製品トス。雜貨ハ鐵道便ニ依リ京阪地方ヨリ輸送シ來リ北海道、北鮮(元山、城津、清津)露領亞細亞及中華民國方面ニ、藥製品ハ兵庫、滋賀、三重ノ各縣ヨリ産スルモノト縣内産トヲ併セ北海道及北鮮地方ニ移出セラル。移入ノ重ナルモノノ内石炭ハ北海道及九州地方ヨリ移入シ多クハ鐵道用炭トシ其ノ他ハ本縣下及滋賀縣下ノ工場用炭トシテ消化スルモノトス。尙穀類、鮮魚、魚糟類ハ北海道、朝鮮方面ヨリ縣内ハ勿論滋賀、京阪神及名古屋中央線一帯ニ移出セララルル狀況ニ在リ。